

## 交渉速報(要旨) 申1号「新潟統括センターの設置について」に対する申し入れ ②

### 4. 業務融合を実施する目的、効果を明らかにすること。

●会社回答: 業務融合を進めることで、社員の活躍フィールドや業務領域を拡大し、新たな価値創造に挑戦していく考えである。

組合→業務融合を進める事でモチベーションが上がっているという認識か。

会社→様々な意見がある。色々な業務をする事で成長に繋がっているという意見がある一方で、体力的につらいといった意見がある事は認識している。

組合→個人面談で専属の業務を通じてプロフェッショナルを目指したいといった意見を汲んではもらえないのか。

会社→業務融合の拡大は会社の持続的な成長に欠かせないものである。そういった意見の社員へは目的とアドバイスや導きを面談やコミュニケーションを通じて行っているところである。

組合→モチベーションが下がっている。会社を辞める社員が多い事についての認識はどうか。

会社→会社としての方向性を示している中で、やりたくない意見を通せば社員間の分断に繋がる。特情等について全く聞き耳を持たない訳ではない。離職理由は様々、業務融合によって上がっているとは考えていない。

### 5. 新潟統括センター設置による融合と連携、新たな価値創造の加速について具体的に明らかにすること。

●会社回答: 業務融合を進めることで、社員の活躍フィールドや業務領域を拡大し、新たな価値創造に挑戦していく考えである。

組合→この間の融合と連携、新たな価値創造の加速についての成果はなにか。

会社→DX等を活用して更なる融合を進めてきた。イベントを通じた企画立案業務に携わる事で成長に繋がっている。稼ぐという事も意識してきた。

組合→新たな価値創造の加速の一つに社員発意とあるが課題はあるか。

会社→社員の発意は従来からあった。上司が進めれば上司に責任がある。社員に責任をとらならない。

### 6. 業務融合における教育はその業務に精通した社員が行うこと。

●会社回答: 引き続き、必要な知識・技能を有した社員が教育やフォローアップを行っていく考えである。

組合→相互運用をして一本になった社員が、次の相互運用の社員を教える実態がある。車掌専属の指導を求める。

会社→習熟度を満たしていれば問題ない。フォローアップはしていく。

組合→車掌を経験していない運転士が相互運用をする場合の考え方はどうか。

会社→全社的に考えているところであり、検討しているところである。

組合→職責を軽く見てはいけない。運転士には経験が浅い指導は付けないが車掌、駅にはつけるのは何故か。危険な時に経験が無ければ止められない。だから経験のある人が指導をするべきだという事で申し入れている。

会社→ご意見として受け止める。

### 7. 新潟統括センター設置に伴う帰省用交通費の考え方を明らかにすること。

●会社回答: 帰省用交通費については、「単身赴任者等に対する帰省用交通費の支給について(2023年3月10日日本総法第785号通達)」に則り、取り扱っているところである。

組合→新潟統括センター設置後、新津乗務室の社員で長岡に家族居住地がある場合、長岡～新潟間の新幹線特急券を申請できるのか。

会社→新潟乗務室でも働く可能性及び実績があれば申請できる。